

ISSN 1881 — 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行者：森田裕介
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2026.10.15
NO.279
.....

科学教育研究レター



目次

■ 日本科学教育学会創立 50 周年記念事 2	■ 若手活性化委員会だより 11
業企画・実行委員会	第 50 回日本科学教育学会年会若手企画報告
科学教育啓発活動・イベント部門創立 50	2026 年日本科学教育学会研究会(若手活性化委員
周年記念行事開催報告	会開催)予告
■ 年会 3	■ 編集委員会だより 15
第 50 回年会開催報告	2026 年度第 1 回編集委員会報告
第 51 回年会開催案内 (第 1 次)	特集投稿募集 (若手特集論文) のお知らせ
■ 支部・研究会だより 5	「科学教育研究」編集状況報告
2026 年度研究会開催のお知らせ	■ 広報委員会からのお知らせ 21
■ 国際交流委員会だより 6	
第 50 回日本科学教育学会年会 国際ラン	
チョン・ミーティング開催報告	
2026 年度第 1 回日本科学教育学会研究会	
(国際交流委員会開催) 開催予告	
国際学会参加報告(79)	
国際学会開催情報	

科学教育啓発活動・イベント部門創立 50 周年記念行事開催報告

東京大学駒場リサーチキャンパスⅡで開催された第 50 回年会において、創立 50 周年記念事業の一環として 3 日目の 9 月 13 日（日）に記念行事を開催しました。午前は年会のインタラクティブ・セッションと合同で「小中高生の探究発表」を実施しました。小学生、中学生、高校生あわせて 39 件の発表がありました。会場には発表者、研究者、現職教員、保護者ら 170 名余りが訪れ、活気に溢れました。小中高生から日頃の研究成果が報告されると、研究者らから質問やアドバイスが活発になされていました。高校生による英語での発表もあり、インタラクティブ・セッションで発表をしていた海外の研究者が高校生の発表を聞いて、熱心に質問をするシーンもありました。着眼点が独創的な研究、実験計画が精緻されている緻密な研究、どの研究も未来をつなぐ大変ユニークな研究でした。



午後は、中学生、高校生、学会員である研究者や教育関係者、30 名余りが世代や立場を超えて集い、「科学と教育と多様性」をテーマに思いを語り合う「ラウンドテーブル」を実施しました。まず、東京学芸大学附属国際中等教育学校の生徒 3 名から、話題提供がありました。「科学」と「教育」と「多様性」という 3 つのキーワードのつながりについて、悩みながら 3 人で話し合っ得られたことを、身の回りの事例を引用しながら発表してくれました。彼らからの「今後、科学や教育はどのような多様性に向かうべきか」という問題提起を受け、各テーブルでは円形ボードを囲んでそれぞれの思いや考えを可視化しながら、積極的な意見交換が行われました。「多様性を受け入れることって、自己理解を深めて、他者の中で自分の位置を知ることではないか」とか「正解を探す授業ではなくロマンを追いつめる授業をしたい」など、深い思いに根差した発言がどのテーブルでも行き交いました。最後に前学会長の隅田学先生にご講評をいただき、科学そのものが多様化している現代にあって、多様性の先にある融和の重要性について示唆していただきました。

事後アンケートでは、「ラウンドテーブルは有意義だった」との回答が 91%の参加者からありました（N=23）。その理由として「日本の高校生の思慮深さや現状について、濃厚な時間の中で語り合いを通して理解することができてよかったです。」という大人の感想に交じって、「ここでしか出会えないメンバーと対話ができ、うれしくて、楽しくて、とても有意義でした。」という回答もありました。大人も子どもも、一見難しそうなテーマでも、隔てなく話していくうちに新しい場所に立っているような感じがありました。世代を超えて話し合う機会の重要性を感じます。そのような時間を JSSE の年会の中で実現できたのは素晴らしいことでした。

最後になりましたが、ご参加くださった皆さまと、ご引率くださった先生方、保護者の皆さま、並びに開催にご協力くださった皆さまに深くお礼申し上げます。



第 50 回年会開催報告

日本科学教育学会第 50 回年会は、2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）の日程で、文部科学省、東京都教育委員会、目黒区教育委員会の後援を得て、東京大学生産技術研究所、東京大学先端科学技術研究センター共催にて執り行われた。本学会が 2027 年に創立 50 周年を迎えるにあたり、今回の年会は第 50 回という節目であり、「科学教育研究の半世紀とこれから」をテーマに開催した。

今回の年会を総括すると、招待講演（科学教育研究セミナー）、創立 50 周年記念シンポジウム、記念事業、そして、課題研究 27 セッション（発表数 129 件）、一般研究発表 157 件（内英語での発表 2 件）、インタラクティブセッション 9 件であった。また、創立 50 周年記念行事として、小中高生の探究発表やラウンドテーブル、国際ランチョンミーティングも行われた。参加登録者数 631 名に加えて、小中高生とその引率者約 140 名の参加もあり、国内外から多くの方々にご参加いただいた。

創立 50 周年記念シンポジウムは、「科学教育研究の多様性と今後の展開」をテーマとして開催された。本学会前会長の隅田学先生のモデレートのもと、大島まり氏（東京大学生産技術研究所教授）、小川義和氏（立正大学教授、日本科学教育学会前々会長）、田熊美保氏（OECD 教育局シニア政策アナリスト）、榊太一氏（同志社大学ハリス理化学研究所）、渡辺美代子氏（特定非営利活動法人ウッドデッキ）という、多様なバックグラウンドを持つ方々に登壇いただいた。次の 50 年に向けた科学技術人材の育成と科学教育のあり方について、参加者との対話も交えながら議論を深めた。

記念行事の小中高生によるポスター発表では、39 件の発表があり、多くの見学者が詰めかけ、熱心な議論が行われた。また、ラウンドテーブルでは、学会員に加え、教育関係者、中高生、一般の方々など 25 名を超える参加があった。「科学と教育と多様性」をテーマとして、東京学芸大学附属国際中等教育学校の生徒による話題提供ののち、科学と教育について世代を超えた活発な議論が交わされた。

懇親会は、渋谷エクセルホテル東急で開催された。ホテル最大の宴会場を確保したものの、予想を上回る多くの方からお申し込みをいただき、定員に達したため、一部の方の参加をお断りせざるを得なかったことは大変残念であった。懇親会では、本学会の会長、前会長および元会長に加え、開催校である東京大学の藤井輝夫総長、開催会場である生産技術研究所の年吉洋所長、先端科学技術研究センターの杉山正和所長からご挨拶をいただいた。盛会のうちに懇親会を終え、次回開催校である島根大学へとバトンを渡すことができた。

多くの参加者、年会企画委員会、年会実行委員会の皆様のおかげで、このように充実した内容にすることができた。本学会の最初の年会は東京大学のキャンパスで開かれたと伺っている。半世紀を経て、記念すべき第 50 回年会を再び東京大学のキャンパスで開催できたことは大変名誉であり、実行委員長として身の引き締まる思いであった。東京大学生産技術研究所（東大生研）の川越至桜教授とともに、東大生研次世代育成オフィスのメンバー、東大生研の教職員、東京大学先端科学技術研究センターおよび年会企画委員会の方々の協力を得ながら、無事に終えることができた。皆さまにはこの場をお借りして心より御礼を申し上げる。

次の 50 年に向け、来年の 51 回年会が益々の盛会となること、ならびに本学会や科学教育研究の更なる発展を祈念して、開催報告とさせていただきます。

日本科学教育学会第 50 回年会実行委員会 委員長 大島 まり

第 51 回年会 開催案内（第 1 次）

1. 日程：2027 年 9 月 3 日（金）～5 日（日）（3 日間を予定）
2. 会場：島根大学 松江キャンパス
（〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060）
https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/transport_access/campus_map/campus_map01.html
3. 第 51 回年会実行委員会
委 員 長 御園真史（島根大学）
委 員 香川奈緒美（島根大学），下村岳人（島根大学），中村謙斗（東京理科大学），福田博人（岡山理科大学）
4. 年会企画委員会
委 員 長 服部裕一郎（岡山大学）
副委員長 福田博人（岡山理科大学），畠山 久（東京科学大学）
幹 事 石橋一昂（岡山大学）
担当理事 山本智一（兵庫教育大学），大谷洋貴（大妻女子大学）
委 員 安部洋一郎（兵庫大学），新井しのぶ（中村学園大学），岡部 舞（大阪教育大学），
小野寺かれん（岡山大学），川越至桜（東京大学），小泉健輔（横浜国立大学），
下村岳人（島根大学），田中若葉（東京学芸大学），平林真伊（山形大学），
増田有紀（埼玉大学），村津啓太（大阪信愛学院大学），山中真悟（福山市立大学），
山本輝太郎（金沢星稜大学）

2026 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	2026 年 11 月 14 日(土)	2026 年 10 月 15 日(木)	オンライン
若手活性化委員会	2026 年 12 月 12 日(土)	2026 年 11 月 12 日(木)	東京理科大学 神楽坂キャンパス (一部オンライン)
九州沖縄支部	2027 年 2 月 20 日(土)	2027 年 1 月 20 日(水)	佐賀大学 教養教育二号館 2101 室・2201 室
南関東支部	2027 年 3 月 7 日(日)	2027 年 2 月 8 日(月)	オンライン (麻布大学※対面開催 の可能性あり)
東海支部	5 月もしくは 6 月を予定		岐阜大学 (予定)
北海道支部	2027 年 6 月 13 日(日)	2027 年 5 月 13 日(木)	検討中

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2026 年度 第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会）

JSSE 1st Research Conference in 2026 (conducted in English and hosted by International Exchange Committee)

[テーマ/Theme] Science Education from Global Perspectives

詳細につきましては、7 ページの開催予告をご覧ください。

2026 年度 第 2 回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）

[テーマ] 次世代の科学教育研究

詳細につきましては、12 ページの開催予告をご覧ください。

第 50 回日本科学教育学会年会 国際ランチョン・ミーティング
開催報告

日本科学教育学会第 50 回年会において、2 日目の 9 月 12 日（土）12:30～13:40 に国際ランチョン・ミーティングを対面形式で開催しました。委員も含め、事前登録 45 名、当日参加 18 名の計 63 名の方にご参加いただき、大変盛況でした。また、今回は中高生の参加もありました。

今年度の国際ランチョン・ミーティングでは、「国際共同研究」をテーマとして、そのご経験豊かな、熊野善介先生（宮城教育大学・静岡大学）、真野祐輔先生（広島大学）の 2 名の先生から話題提供いただきました。その後、各グループで英語による国際学会への参加や国際交流についてディスカッションが行われました。年々海外研究者の方の参加も増えており、グループディスカッションでは、参加者のこれまでの体験や国際交流に関する関心などが活発に議論され、充実した会となりました。

また、国際交流委員会が 11 月 14 日（土）に開催する英語による研究会（2026 年度第 1 回研究会）の案内も行われました。英語での研究会は 5 回目の開催となります。会員の皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、次ページの開催案内をご参照ください。

国際交流委員会では毎年、年会期間中の昼食時間帯にランチョン・ミーティングを開催し、会員同士の交流を通して、国際的な研究活動のきっかけ作りを行っています。次年度の第 51 回年会でも開催予定です。企画についてご要望などありましたら、国際交流委員会にお寄せください。



最後になりましたが、今回のランチョン・ミーティングの開催にあたりご協力頂いた年会実行委員会、年会企画委員会、広報委員会の皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。

担当：越智拓也（成蹊大学）

2026 年度第 1 回日本科学教育学会研究会（国際交流委員会開催）

開催予告

2025 年度に引き続き、2026 年度第 1 回研究会（国際交流委員会開催 英語による研究会）を 2026 年 11 月 14 日（土）にオンライン（Zoom 利用）にて開催します。この研究会は、科学教育研究について、会員の皆様が英語で発表する場を設け、国際的な発信を促すとともに国際交流を活性化することを目的として、論文掲載、一般発表、および講演をすべて英語で行います。

これまで国際学会等に参加したことがない方でも安心してご参加いただけるように、一般発表では、トラブル時など日本語でサポートできるように準備をしていますので、多数の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

○日時：2026 年 11 月 14 日（土）9:00-12:00 （予定）

○開催方法：Zoom によるオンライン開催

○研究会のプログラム概要

<海外の研究者によるゲストトーク>

下記 2 名の研究者をお迎えし、ゲストトークを行います。

- Jodie Hunter (Professor, Massey University, New Zealand)

Title: Supporting equitable outcomes in mathematics by connecting culture and classroom practice

- Kennedy Kam Ho Chan (Associate Professor, The University of Hong Kong)

Title: Does pedagogical content knowledge remain a useful construct for 21st-century science teacher education? Insights from empirical research

<英語による一般発表>

英語による研究発表を行います。初めての方も大歓迎です。

なお、研究会終了後に情報交換会の開催も予定しております。

○発表・参加申込について

- 研究会 URL：<https://jsse.jp/workgroup/2026-01>

- 発表・参加申し込み先 URL：<https://forms.gle/ph7SHmuYBgArVeQJ8>

発表申込・原稿提出・原稿料支払い期限：2026 年 10 月 15 日（木）厳守

参加申込期限：2026 年 11 月 9 日（月）

国際学会参加報告 (79)

The 49th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME49)

PME49 (The 49th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education) が、2026 年 7 月 27 日 (月)～8 月 1 日 (土) に、Sensing and Making Sense of Mathematics というテーマの下、フィンランドにあるヘルシンキ大学で開催されました。

PME は 1976 年に創設された歴史と伝統のある国際学会であり、設立当初は、P の名称が示す通り、数学教育における心理学的側面の研究を中核とする学会でした。しかし、その後は研究対象や研究方法が広く拡充し、現在では数学教育学全般において最も大きな国際学会の一つとして認知されています。今回は 51 ヶ国から 789 名の参加があり、PME の単独開催としては最も大きな年会となりました。

PME のプログラムは、個々の研究発表については論文発表 (Research Report, Scopus に収録) や口頭、ポスター発表 (Oral Communication, Poster Presentation)、グループ活動・発表については Working Group や Research Forum など多岐にわたっています。特にグループセッションでは、新興の研究課題や最新の研究に関与することができます。実際、筆者が参加した数学的証明に関する Working Group は、数回の年会にわたって開催されており、関連の成果が国際ジャーナル Educational Studies in Mathematics の特集号の企画に結実しています。理論の基礎、形態、機能に関する Research Forum では、今後出版が予定されている研究成果についての発表が行われていました。PME は、こうした研究発表や研究情報の収集に限らず、海外の研究者とのネットワークや共同研究のきっかけの場にもなります。

PME は、翌年の第 50 回記念大会を、日本の東京で 2027 年 7 月 19～24 日に開催します (<https://pme50-tokyo.jp>)。大会テーマは、50 回の節目と本学会の多様性を象徴した Journey of Mathematics Education Research across Boundaries です。PME では、その幅広さから、数学教育を主たる専門分野としていない方でも、算数・数学を事例とした研究や、STE(A)M 教育に関する研究など、数学教育と関連する関心をお持ちであれば、有意義な機会が得られます。日本でこうした大規模な国際学会に参加できる機会は限られていますので、日本科学教育学会の会員の皆様にも積極的に参加をご検討いただければ幸いです。



(小松孝太郎, 筑波大学)

国際学会開催情報

WALS (World Association of Lesson Studies) Conference 2026

開催地：オンライン

期間：2026年11月2-4日

<https://walsnet.org/2026/>

ICPE (International Commission on Physics Education) Conference 2026

開催地：オンライン

期間：2026年12月18-20日

<https://www.icpe2026.com/>

CERME15 (The 15th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education)

開催地：Bratislava, Slovakia

期間：2027年2月8-12日

<https://www.cerme15.org/>

NARST (National Association for Research in Science Teaching) Annual International Conference 2027

開催地：Boston, US

期間：2027年3月14-17日

<https://narst.org/conferences/2027-annual-conference>

ASERA (Australasian Science Education Research Association) Conference 2027

開催地：Parkroyal Monash, Clayton, Victoria, Australia

期間：2027年6月29日-7月2日

<https://www.asera.org.au/2027-conference/>

PME50 (The 50th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education)

開催地：Tokyo, Japan

期間：2027年7月19-24日

<https://pme50-tokyo.jp/>

ICTMA23 (The 23rd International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications)

開催地：Skukuza, South Africa

期間：2027年8月22-27日

<https://ictma23.carlamani.com/>

ESERA (European Science Education Research Association) Conference 2027

開催地：Málaga, Spain

期間：2027年8月30日-9月3日

<https://www.esera.org/conference-2027/>

ICME16 (The 16th International Congress on Mathematical Education)

開催地：Prague, Czech Republic

期間：2028年7月9日-16日

<https://www.icme16.org/>

EASE (East-Asian Association for Science Education) Conference 2028

開催地：未定

期間：2028年

<https://theease.org/>

ICASE (International Council of Associations for Science Education) Conference 2029

開催地：Cancun, Mexico

期間：2029年

<https://icaseonline.net/web/conferences/#icase-2029>

CERME16 (The 16th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education)

開催地：未定

期間：2029年

ICOTS13 (The 13th International Conference on Teaching Statistics)

開催地：Glasgow, UK

期間：2030年

第 50 回 日本科学教育学会年会 若手企画 報告

第 50 回年会では若手活性化委員会によるワークショップ企画として、「#もっと交流したいです」を実施しました。

この企画は、第 49 回年会（広島大学）で実施した交流企画「#交流したいです」がご好評いただいたことを受け、その内容や進め方をブラッシュアップして実施したものです。参加者に気軽に楽しみながら交流をしていただくもので、科学教育に関わる研究や実践の歩みを今後共にするであろう仲間との一段深い関係形成を目指して実施されました。今回は、昨年度の企画に対するフィードバックを参考に、同じ専門分野のグループでの交流と、異なる分野のグループでの交流ができるようにしました。当日は 47 名が参加し、「初めて研究の面白さを感じたのはどんなときだったか」「自分のキャリアに影響を与えた出会いや出来事は」など、若手会員に特になじみのある話題が書かれたカード（右図はその抜粋）を使いつつ、お互いの考えを共有しました。参加者からは「自身の今後のキャリアについて様々な立場の方から多角的にご意見を頂戴できた」（学部学生）や「トークテーマがさまざまで話題に困らずとても助かりました」（修士課程院生）、「異分野の方のお話がとても刺激になりました」（博士課程院生）などの感想をいただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

若手委員おすすめテーマリスト	
研究	A2 初めて研究の面白さを感じたのはどんな時だったか？
	A4 これまでに直面した一番の壁や葛藤、挫折は何だったか？
	A6 あなたの研究の最も面白いと思うところは？
	A11 これから挑戦してみたい研究テーマは何か？
	A13 研究費や時間に制限がなかったら、何を研究したいか？
キャリア・独立	A15 どんな研究者・実践者として引退の瞬間を迎えたいか？
	B3 自分のキャリアに影響を与えた出会いや出来事は？
	B10 働き方や生き方でロールモデルとしている人はどんな人か？
	B12 今後、どんな研究者・実践者になりたいか？



2026 年 日本科学教育学会研究会(若手活性化委員会開催) 予告

若手活性化委員会が担当する研究会を、2026 年 12 月 12 日（土）に東京理科大学神楽坂キャンパスにて開催します。

[テーマ] 次世代の科学教育研究

[日 時] 2026 年 12 月 12 日（土）

受付：12:30-13:00

ポスターセッション 13:00-17:00

[会 場] 対面開催（一部オンライン）

東京理科大学神楽坂キャンパス 1 号館 17 階大会議室

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

[対 象] 会員，非会員

[参加・発表申込・論文原稿提出等の締切]

- 発表申込：11 月 12 日（木）
- 原稿投稿料の振込・原稿の提出：11 月 12 日(木)
- 発表申込フォームは参加申込をされた方に案内いたします
- 発表の有無にかかわらず参加可能
- 発表のない参加は対面/オンライン問わず当日申込でも可
- 参加費無料

参加および発表を希望される方は以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd7_IbZfKMt5goft5OWAVXstJbsqi4SL1VFgFCNaxNEXxK5LA/viewform

※原稿は次のウェブサイトから投稿してください。（投稿料の振込先情報あり）

〈URL： <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

[発表方法]

発表形式は（１）対面発表（２）オンデマンド発表の２形式から選択

（１）対面発表

- 当日ポスター発表形式で実施
- サイズは A0 または A1 で縦表示

※ 昨年度までと異なり，発表内容の紹介動画の事前提出は不要です

（２）オンデマンド発表

- 発表動画の提出により実施
 - 発表動画の提出期限：2026 年 12 月 2 日（水）
 - 提出先は発表申込後にお伝えします
- オンデマンド会場（Slack 等）で参加者同士が閲覧可能（当日会場での発表なし）
- 発表動画の規格：10 分から 15 分程度の 1GB を上限とする MP4
 - スライドやポスター発表風景を Zoom で自己撮影するなどして，動画ファイルを作成してく

ださい。

- 必要項目：研究の概要（例：目的，方法，結果・考察）
 - 議論したいことやメッセージも是非お願いします（〇〇の意見が欲しい，など）

[発表条件]

発表は，単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば，会員として扱うこととします。

- ・連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。
- ・タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。
- ・プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。ご了承ください。
- ・J-STAGEに公開する『科学教育研究報告』の目次は，投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。
- ・連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には，自動的に発表は取り消しとなりますので，くれぐれもご注意ください。また，入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので，予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2>〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「若手活性化委員会」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように，あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

[託児サービスの実施]

本研究会では，託児サービスを実施する予定です。利用を希望される方は，参加申込URLの選択項目にてお知らせください。**託児利用の申込締切は2026年11月12日(木)です。**詳細は，利用希望者に別途お知らせ致します。

また，託児サービスの利用の有無に関わらず，本研究会は，お子様と一緒にのご参加も歓迎致します。なお，ご家庭の事情等で参加が難しくなった場合は，ご遠慮なくご相談ください。

[研究会に関する問い合わせ]

若手活性化委員会・幹事 袴田 綾斗（愛知教育大学）

E-mail: hakamata(atmark)aecc.aichi-edu.ac.jp （(atmark)の部分は@です）

多数の方々の申込みをお待ちしております。

<その他>

研究会に関わる情報は学会 HP のほか、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます。どうぞご期待ください。

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

2026 年度第 1 回編集委員会報告

令和 8 年 9 月 11 日（金）に、第 50 回年会会場の東京大学において対面会議で開催された。まず、2026-2027 年度の編集委員会の構成が報告された。まず、出席者の自己紹介の後、編集委員会・編集理事会の活動及び編集の進め方が確認された。続いて、「科学教育研究」の編集状況（通常号・特集号）、オープンアクセスジャーナル化の検討状況が報告された。今後の編集委員会および編集理事会の予定などが報告された。その後、編集に関わる留意点などに関する協議が行われた。

特集投稿募集（若手特集論文）のお知らせ

編集委員会では、若手活性化委員会と連携し、下記の趣旨で「科学教育研究」第 51 巻第 4 号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、すべての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規程により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります。この特集には投稿条件が設定されています。その点にご注意ください。

また、「科学教育研究」のオープンアクセスジャーナル化に伴い、2027 年 1 月 1 日以降に投稿され、本誌に掲載される論文には、原則としてクリエイティブ・コモンズ・ライセンス「CC BY 4.0（表示 4.0 国際）」が付与されます。本特集への投稿受付は 2027 年 1 月 1 日から開始するため、本特集に投稿され、採録のうえ本誌に掲載される論文はこの対象となります。オープンアクセスジャーナル化および CC ライセンスの詳細については、以下をご確認ください。

「科学教育研究」オープンアクセス情報：

<https://jsse.jp/15-2/open-access>

編集委員長 吉田安規良
特集編集部会長 山口悦司
若手活性化委員会委員長 中村謙斗

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として、また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として、若手会員を対象とした特集（以下、若手特集と

称する)によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが2017年に始まった。2026年で10回目となる。これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し、『科学教育研究』第42巻以降の各巻第4号に、多くの若手会員の研究成果を掲載してきた。2026年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と、研究成果の公表機会の提供を行う。

若手活性化委員会では、若手特集への投稿を含め、若手会員の論文執筆を支援するため、論文執筆に関する動画集を公開している。今回の若手特集においても、この取り組みを通して若手会員の論文投稿を支援する。

論文執筆に関する動画集(若手活性化委員会)：

https://www.youtube.com/channel/UC650_x_hXGPOewQYgJcVnMA

また、若手特集への投稿条件については、今回の若手特集においても、これまでの投稿条件を継承する。若手活性化委員会が担当する研究会(開催予定：2026年12月12日(土)、東京理科大学・神楽坂キャンパス、対面開催(一部オンライン))での研究発表が今回の若手特集の投稿条件となっている。詳細は、下記の投稿条件を確認されたい。

若手特集は、近年、重要性が増している学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり、そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指している。多くの若手会員からの投稿を期待している。

特集編集部会の構成メンバー

部会長：山口悦司(神戸大学)

副部会長：山本輝太郎(金沢星稷大学)

特集編集部会委員：(調整中)

投稿条件

以下の(1)～(3)の3点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます。これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては、一般論文としての査読対象とさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

(1) 以下の(a)、(b)、(c)のいずれかを満たす学会員が、投稿論文の筆頭著者となっていること。

(a) 投稿締切日時点で、39歳以下である。

(b) 投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。

(c) 投稿締切日時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後8年未満(※1)であるか、博士の学位取得後8年未満(※2)である。

(※1) 投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後8年未満となることを含む。

(※2) 投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となることを含む。

(2) 若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2026 年 12 月 12 日（土）、東京理科大学・神楽坂キャンパス、対面開催（一部オンライン））で、筆頭著者として研究発表を行っていること。

(3) 上記 (2) の研究発表内容に基づいた論文であること。

事前申込（必須）締切：2027 年 2 月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため、事前申込を必須とします。投稿を予定している方は大変お手数ですが、メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込」とし、以下の事前申込内容を jsse-hen[atmark]nacos.com までお送りください。

---（事前申込内容ここから）

特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込

- ・ 著者名・所属：
- ・ 仮タイトル：
- ・ 論文種別：
- ・ E-mail アドレス：
- ・ 電話番号：
- ・ 連絡先住所：
- ・ 投稿条件 (1) について：

※満たしている項目の [] 内に●を記入してください。

[] (a) 投稿締切日時時点で、39 歳以下である。

[] (b) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。

[] (c) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後 8 年未満（※1）であるか、博士の学位取得後 8 年未満（※2）である。

（※1）投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後 8 年未満となることを含む。

（※2）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む。

---（事前申込内容ここまで）

投稿受付開始：2027 年 1 月 1 日

投稿締切：2027 年 3 月 31 日

*特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

＊投稿論文には，日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします．（執筆要領 4. (2) 参照）

＊査読は，投稿締切後に開始します．

発刊予定：2027 年 12 月

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については，一般論文としての査読を継続いたします．

以上

「科学教育研究」編集状況報告

1. 新規投稿論文（2026.9.1～2026.9.30）： 14 編

【内訳】

和文 13 編

英文 1 編

2. 査読中論文（2026.9.30 現在）： 34 編

【内訳】

著者に差し戻し中（受付前）： 0 編

担当編集委員選出中： 1 編

査読者選出中： 4 編

査読者諾否待： 2 編

査読中（1 回目）： 11 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中： 1 編

改訂稿待ち： 7 編

査読中（2 回目）： 6 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中： 2 編

編集委員長による最終判定中： 0 編

3. 掲載決定論文（2026.9.1～2026.9.30）： 4 編

【内訳】

研究論文： 4 編

総説・展望： 0 編

資料： 0 編

プラザ： 0 編

【合計】

50-4 号： 4 編（通算 6 編）

51-2 号： 0 編（通算 1 編）

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移（2023.9.1～2026.9.30 現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数 （掲載号）		掲載不可論文数 （見なし取り下げを含む）	
	和 文	英 文	和 文	英 文	和 文	英 文	掲載不可	取り下げ
2023年 9月	4	1	29	1	6 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 10月	18	0	36	1	5 (47-4) 1 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	5	0
2023年 11月	20	0	53	1	0 (47-4) 0 (48-1)	0 (47-4) 0 (48-1)	1	2
2023年 12月	4	0	52	1	1 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	4	0
2024年 1月	7	0	51	1	0 (48-1) 0 (48-2)	0 (48-1) 0 (48-2)	6	2
2024年 2月	13	0	53	0	2 (48-1) 2 (48-2)	0 (48-1) 1 (48-2)	7	0
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2) 0 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	4
2024年 4月	26	0	56	0	6 (48-2) 3 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	15	1
2024年 5月	10	0	43	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	17	1
2024年 6月	9	0	42	0	0 (48-2) 5 (48-3)	0 (48-2) 0 (48-3)	5	0
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-3) 1 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	5	1
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3) 7 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	6	0
2024年 9月	2	0	21	0	0 (48-3) 5 (48-4)	0 (48-3) 0 (48-4)	7	0
2024年 10月	19	0	32	0	2 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	5	0
2024年 11月	13	1	34	1	0 (48-4) 2 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	9	0
2024年 12月	2	0	28	1	0 (48-4) 1 (49-1)	0 (48-4) 0 (49-1)	7	0
2025年 1月	9	0	27	0	0 (49-1) 0 (49-2)	0 (49-1) 0 (49-2)	10 (うち英文1)	1
2025年 2月	10	0	32	0	2 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	1
2025年 3月	7	0	32	0	5 (49-2) 0 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	2	0
2025年 4月	23	0	46	0	3 (49-2) 1 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	5	0
2025年 5月	7	1	44	0	0 (49-2) 2 (49-3)	0 (49-2) 0 (49-3)	7	1
2025年 6月	5	0	34	0	4 (49-3) 0 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	10	1
2025年 7月	10	0	36	0	1 (49-3) 1 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	6 (うち英文1)	0
2025年 8月	13	1	41	0	0 (49-3) 3 (49-4)	0 (49-3) 0 (49-4)	5	1
2025年 9月	6	0	31	0	5 (49-4) 0 (50-1)	0 (49-4) 0 (50-1)	9	2
2025年 10月	11	0	31	0	1 (49-4) 1 (50-1)	0 (49-4) 0 (50-1)	9	0
2025年 11月	11	1	40	1	0 (49-4) 0 (50-1)	0 (49-4) 0 (50-1)	2	0
2025年 12月	10	0	45	0	1 (50-1) 0 (50-2)	0 (50-1) 0 (50-2)	4	0
2026年 1月	4	0	37	0	2 (50-1) 2 (50-2)	0 (50-1) 0 (50-2)	8	0
2026年 2月	11	0	39	0	1 (50-2) 0 (50-3)	0 (50-2) 0 (50-3)	7	1
2026年 3月	28	0	56	0	5 (50-2) 0 (50-3)	0 (50-2) 0 (50-3)	5	1
2026年 4月	19	0	60	0	5 (50-2) 1 (50-3)	0 (50-2) 0 (50-3)	9	0
2026年 5月	3	0	39	0	3 (50-3) 1 (51-2)	0 (50-3) 0 (51-2)	16	4
2026年 6月	8	0	28	0	2 (50-3) 0 (50-4)	0 (50-3) 0 (50-4)	16	1
2026年 7月	14	0	32	0	2 (50-3) 1 (50-4)	0 (50-3) 0 (50-4)	7	0
2026年 8月	7	0	33	0	0 (50-3) 1 (50-4)	0 (50-3) 0 (50-4)	5	0
2026年 9月	13	1	34	0	4 (50-4) 0 (51-1)	0 (50-4) 0 (51-1)	8	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 279 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：	向 平和（愛媛大）	御園真史（島根大）	
委 員：	内ノ倉真吾（鹿児島大）	辻山洋介（群馬大）	北澤 武（青山学院大）
	中村大輝（宮崎大）	渡邊耕二（宮崎国際大）	増田有紀（埼玉大）
	加藤圭太（早稲田大）		
幹 事：	谷塚光典（信州大）	細田幸希（目白大）	後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会